第３学年２組　国語科学習指導案

令和５年２月３日（金）
指導者　三宅　公子

１　単元名　詩を読もう「よかったなあ」

２　目標
（１）文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。［知識及び技能］（１）ク
（２）情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。
［思考力，判断力，表現力等］Ｃ（１）エ
（３） 詩を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつことができる。
［思考力，判断力，表現力等］Ｃ（１）オ
（４）言葉のもつよさに気付くとともに，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする。
［学びに向かう力，人間性等］

３　単元で取り上げる言語活動
詩を読み，内容を説明したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動。
（関連：［思考力，判断力，表現力］Ｃ（２）イ）

４　授業構想と探求への手立て
本単元は，［思考力，判断力，表現力等　Ｃ読むこと］において，（１）エ「登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像すること」を重点指導事項としている。

〇思考の必然性を実感することができる単元構想の工夫
本単元で取りあげる詩「よかったなあ」には多くの表現技法や表現の工夫が用いられている。本単元ではこれらを手がかりとして，詩を読む方法や詩の味わい方についての理解を深めたい。初めての詩との出合いの場では，第一印象の伝え合いや視写を通して，詩全体の構成を確認するとともにスタート段階の自分なりの解釈や，理解の難しい部分を確認できるようにしたい。また，この詩の魅力は読み解く難しさがある一方，丁寧に読めば読むほど表現の工夫や面白さが見つかることである。中でもこの詩には「よかったなあ」「いてくれて」などの繰り返しの表現があるが，四連だけは他の連と表現が異なることへの気付きをきっかけに，その違いを主体的に考えたいという思いを引き出したい。

〇学び合いの場における教師のはたらきかけの工夫
四連からなるこの詩は，まず，ぼくらの目の前の草や木への感謝から始まっている。それが人を含めた動物たちから草や木への感謝に変わり，最後は草や木もまた雨，風，太陽などの自然の恩恵を受けているという視点の変化があることに気付けるようにしたい。そのために，出会いの場での気付きを踏まえて，各連について「［　　］があることが［　　］にとってよかった」のかを考える。一・二・三連では「草や木があることが，鳥やけものや虫や人（ぼくら）にとってよかった」四連では「雨，風，太陽があることが，草や木にとってよかった」というように「よかったなあ」のもつ意味が変化している。しかし，一人で読んでもこの変化に気付くことは難しいであろう。「よかったなあ」の違いをみんなで話し合い，児童一人一人が多様な意見を繋ぎ合わせられるよう問い返しの工夫をすることで，児童の思考の変容や深化を目指したい。
さらに，単元のまとめで「よかったなあ　草や木が」に続くオリジナルの一連を考え，共有することで，表現の工夫のよさや面白さを実感できるようにしたい。

５　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。	**① 「読むこと」において，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。** ② 「読むこと」において，文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもっている。	① 進んで，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し，学習の見通しをもって説明したり，考えたことを伝え合ったりしようとしている。

6　展開計画（全３時間）

・詩を読み，詩全体の構成や分からない言葉を確認するとともに感想や疑問をもつ。（１）
・表現の工夫に着目して「よかったなあ」を読み，詩の内容について考える。（２・本時）
・見つけた表現の工夫を使って「よかったなあ　草や木が」に続くオリジナルの一連を考える。（３）

7　本時の学習（第2時／全3時間）

(1)ねらい

この詩に含まれる表現の工夫に着目し，全体を通しての視点の変化に気付くことで，情景を具体的に想像することができる。（思考力，判断力，表現力等）

(2)展開

学習場面と児童の取り組み	目指す姿と取り組みを支える手立て
１．前時の児童の感想や疑問を共有する。 ・自然を大切にしようっていうことかな。 ・「よかったなあ」が何度も出てくるね。 ・四連だけが何か違う。	・同じ言葉が繰り返し出てくるのに，なぜ四連だけ違うと思ったのかを問い，今日のめあてにつなげる。
四つの「よかったなあ」の、ちがいを見つけよう。	
２．一・二・三連を読み，「よかったなあ」の違いを話し合う。 ・「よかったなあ」って、何がよかったのかな。 ・二連は植物がたくさんあってよかったってこと。 ・草や木に「いてくれて」っておかしな感じがするね。 ・誰にとってよかったのかな。	・四連だけ違うという気づきからまずは一・二・三連の「よかったなあ」の違いを話し合う。
３．「草や木があることが鳥やけものや虫や人（ぼくら）にとってよかった」という文にまとめ，四連との比較の手がかりをつくる。 ・ぼくらにとってよかったんだね。 ・ぼくらだけじゃなく鳥やけものや虫や人にとってもよかったんじゃないかな。	・児童の言葉から比較の手がかりをつくり，活動の意欲を高めるようにする。 ・誰にとってよかったのかを考えることによって，四連との違いに気付けるようにする。
４．四連を読み，一・二・三連と四連「よかったなあ」の違いを考え，「　　があることが　　にとってよかった」という文を作る。 ・第四連だけ「ああ」があるけど、他と違うのかな。 ・第四連だけ「いてくれて」がないよ。 ・第四連は，草や木があることが雨・風・太陽にとってよかったってことかな？ ・雨に洗われるのは草や木だね。 ・第四連は草や木が感謝している側なのかな？	・「ああ」がより深い感動を表していることなどが児童の言葉から出てくるようする。 ・「雨に洗われ…」ているのは誰かを考え，今まで恩恵を与えていた側の草や木であることに気付くことができるようにする。
５．本時の学習を振り返る。 ・四連の「よかったなあ」だけ他の連とは意味が違って、雨や風や太陽に、草や木が感謝しているんだということが分かった。 ・始めは同じだと思ったけど，「よかったな」の違いを探したら意味が全然違うことがわかった。	【評価の観点（思考・判断・表現）】 詩に含まれる表現の工夫に着目し，全体を通しての視点の変化に気付くことで，情景を具体的に想像することができる。（発言・ワークシ